

女性委員会通信

232
2016.10.26

東京都港区新橋六 七一 川口ビル六階
全国労働組合連絡協議会 女性委員会
TEL 〇三 五四〇三 一六五〇
FAX 〇三 五四〇三 一六五三

貧困・差別・格差をゆるさない 総がかり運動をつくらう！

《全労協28回大会報告》

9月22～23日熱海で全労協大会が開催された。金澤議長が「夏の参議院選で自民・公明などの改憲勢力の三分の二議席の獲得を許した、アベノミクスは完全に失敗し貧困と格差がさらに進んでいる中、労働者の生活を守り、戦争をさせないためにも幅広い共同戦線が必要である、全労協はその先頭に立つ必要がある、今そのための議論をしっかりと行おう」と挨拶。

議案提起に続き1日目は闘いの報告や総括への意見が14名から出された。東京労組全労からはパワハラで闘う富士グループ争議やFAユニテッド航空解雇争議報告、東京労組フジビ分会からは解雇者3名に損害賠償を請求するSLAP訴訟で労働組合の闘いを否定する高裁不当判決に対し労働弁護団の元・現会長が弁護団に参加し最高裁闘争が始まったこと、闘い強化のための支援要請があった。東部労組からは個人タクシー協同組合に働く女性たちがセクハラ・パワハラに抗し、組合結成・ストライキで闘い大きな勝利を勝ち取ったこと、労契法20条裁判原告の後呂さんからは12月の期日で結審、年度内判決に向けて大きな取組をしたい、非正規労働者の処遇改善を実現させたいと熱い報告があった。郵政ユニオンの日

巻さんからは20条裁判の進捗と非正規・期間契約社員の処遇改善に向けた闘いの決意、メーデーでの共同の取組を求める意見があった。大阪の教育合同労組の大椿さんからは3月末に参加したシカゴでのレイバーノーツ大会、4月1日のシカゴ教員組合のストライキ、最賃15ドルを求めるFF15\$の闘いが紹介された。全国協の島田さんからは今年平均25円の最賃アップで賃金引上げが可能となる労働者は三百～五百万人にも及ぶと最賃闘争の重要性が報告された。全統一の鳥井さんからは貧困と格差をなくす総がかり行動の取組について外国人労働者や移住労働者の視点が大事との意見が出された。

もっと女性や若者が 参加する大会に！

2日目は平和フォーラム共同代表の藤本さん、社民党副党首の福島みずほさんから挨拶を受けて、討論が始まった。8名の発言があり、大椿さんからは教育労働者の闘いの方針を支持する立場から、戦争法が施行されたが、大学の軍事研究など最も身近で加担していくのは教育労働者との自覚を持って、それに抗う闘いの準備が必要、沖縄、福島についても議論を意見が出された。

神奈川県共闘・宮澤さんは全労協青年委員会へ積極的な参加を呼び掛けた。静岡県共闘の岡本さんからはブラジル人女性労働者へのマタハラ解雇や、外国人によるグローバルユニオンの闘いが報告された。全統一労組の佐々木さんからは技能実習生や移住労働者の闘い、最近ではベトナムやカンボジアの労働者の相談が増えたこと、通訳の困難さが報告された。北区地域ユニオンの千葉さんからはJR東日本の子会社の争議、ローソン〇〇ショッポの閉鎖にかかわる雇止の闘いが報告された。最後に東京全労協の寺嶋さんから沖縄と連帯する闘いの強化が提案された。議論を踏まえ中岡事務局長が「権利は譲らない・差別を許さない」を基調に争議を支援し勝利に結びつけよう。安倍政権の戦争する国作り政策は排外主義の風潮を生み、日本人・外国人労働者、

**全労協女性委員会
第26回総会・交流会**
とき 2016年11月27日(日)
14時00分から19時00分頃
ところ SKプラザ B1ホール
テーマ 『闘う女たち大集合』
内容 各地方や労組で争議・奮闘の報告や活動など共有したいと思えます。

市民が一つになって闘うことが求められる。貧困・格差が拡大し高齢者、外国人がターゲットになろうとしている。最賃の適用を受ける労働者が拡大している。最賃闘争を重視し、キャンペーン・キャラバンに全国で取組もう。安倍政権の打倒にむけ、市民と共同した大きな社会運動で貧困・差別を撲滅する総がかりの運動を全労協は積極的に担って行うとまとめを行った。議案は代議員票を掲げて採決され、大会宣言や労働・平和・脱原発の決議が拍手で確認された。役員選出では全統一労組と郵政ユニオン選出の常任幹事の交代があり、金澤議長のもと活動体制が決まった。全労協の大会では2日目の朝に各組合の闘いのビデオ上映もある。また今回はJAL原告2名も含め10名の女性が代議員・傍聴で参加したが、もっととたくさんの方が参加する大会にしたいものだ。



全労協大会に結集した女性参加者全員



全労協大会恒例の大交流会での参加紹介

安倍「働き方改革」にだまされるな!

Stop! 「定額働かせ放題」

労基法改悪、首切り自由化、労政審解体

生活時間と賃金を

取り戻そう! 9・27決起集会

「安倍政権の雇用破壊に反対する共同アクション」主催の集会が開かれ、文京区民センター（東京）のホールは満杯で熱気に溢れた。

集会のメインはMIC（日本マスコミ文化情報労組）元議長で毎日新聞記者の東海林智氏の「安倍『働き方改革』のウソとマコト」安倍政権下で私たちに求められるものは」と題した講演。安倍政権の労働政策は労働者派遣法の改悪で派遣労働者の際限のない拡大、限定正社員、無限定正社員に分け、残業代ゼロ制度、裁量労働制を拡大する。メディアは成果主義 という言葉に振り回され、所定労働時間が無くなり指揮命令権は経営者にある 高級奴隷 になる道であることを暴き出し切れていない。解雇の金銭解決は、企業が裁判のリスクを考えるとなく 自由に 解雇することが究極に可能となる。今「非正規の待遇改善、最低賃金の引き上げ、女性・高齢者の就労促進、長時間労働の是正」などが打ち出されている。が派遣法が再規制される動きはなく、労基法の改悪案も引つ込める気配はない、この改悪案を決めた労政審で労働側が労働時間の上限規制やインターバル規制（勤務と勤務の間の休息时间）を求めたが、それを否定している。インターバル規制は論議するが方針化しない、労働時間の上限規制に関しては、36協定の見直しで3つの案が考えられ、一番最悪な案は上限規制を45〜60時間など厳しく設定し、一方で大量の適用除外を設定し、実質的なダブルスタンダードにして



挨拶する労働弁護団の栗幹事長

しまう（最低基準としての労基法の役割喪失）案だ。同一労働同一賃金の実現は交通費、社員食堂の利用など最低限の部分を割せ、あとは「役割の差は合理的な差別の合理性の立証責任を使用者に課すことも

私のお気に入り

私のお気に入り、ギターを弾きながらフォークソングを歌うことです。フォークソングに親しんでからはや45年以上で、当時はやりの吉田拓郎や井上陽水、かぐや姫の時代。いところから教わってギターを始めその後「ヤングギター、ヤングセンス」などの本を見ながら、見よう見まねでコードを覚え歌いました。（とても解りやすく解説が載っていた）



73年に就職してから職場で労働組合運動にかかわり、労働歌を覚え「うたごえ運動」に参加、歌声サークル活動や集会で労働歌をギター伴奏をしたり、労働者の文化運動を追求する「日音協」の活動の中で自分の言葉で詩を書きメロディをつける創作活動を教わりました。70年代から80年代は総評運動も労働運動も高揚した時代。社会の矛盾や職場、政治の不満、生活のことを歌ったり祭典で発表したりと労働者の文化、とりわけ音楽運動も全国的に盛り上がった頃です。

現在も、組織や活動者は圧倒的に少なくはなりませんが、手弁当の活動は続いています。首都圏では、日音協の仲間が毎週「金曜日行動」で集まる人たちに歌で呼びかけたり、反原発集会やメーデー祭典で舞台などで歌うなどしていますので見かけたら声援を送ってください。

私は仲間とともに、青森市で毎年開催の「4.9反核燃全国集会」や女性集会で歌ったり、今年で49回を数える「はたらくものの音楽祭」（岩手県久慈市で11月）で発表など、細々とやっています。さらに純粋に仲間と音楽を楽しもうと、地元の同級生の店で年2回のフォークライブをしたりと楽しんでます。若い頃母親には「キリギリスのように歌ってばかりいるんじゃない!」と叱られたことがありますが、今も私の心の癒しになっている歌はやめられません。

（電通労組青森支部 高沢陽子）

全労協大会に参加して

初めて全労協大会に参加させていただきましたが、数々の組合が経営者からの不当な扱いを受けてもあきらめずに力強く闘っている姿を見て私達富士グループ分會も経営者に負けずに勝利するまで闘っていく勇気をもらいました。又苦しんでいる仲間の支援を今まで以上に行っていく事を強く思いました。

全労協の趣旨を大事にして他の分會と共に連帯し闘っていく所存です。交流会では今回女性の参加者が10名になったとの事で女性全員で写真を撮った事がとても良い思い出となりました。今後ともご支援、御協力よろしくお願い致します。

全国一般・労働者組合富士グループ分會 吉田春美

今回の全労協大会では、長年移住労働者の問題に取り組んできた全統一労働組合や、ブラジル人移住労働者の問題に奮闘している静岡県労働組合共闘会議等から、移住労働者の問題が提議されたことが印象的でした。

「全労協は格差・貧困問題に取り組みながらも、そこに外国人労働者の視点が欠けているのではないか」という意見に対し、中岡事務局長から「最底辺に置かれている技能実習生をはじめとする外国人労働者の問題を、私たちと同じ労働者の問題として対応していく」という決意が述べられました。大阪教育合同労働組合からは、「戦争法が具体的に動き出す際、最も身近な所で加担していくのは教育労働者であるという自覚をもち、それに抗う闘い方を準備しておく必要がある」と訴えました。

また、沖縄の辺野古・高江の問題に全労協として全面的に支援する体制を作ること、福島原発労働者、除染労働者の問題にも継続して関わることの必要性等について発言を行ないました。

大阪教育合同労働組合 執行委員長 大椿裕子

しない。「ガイドラインを出すので非正規はバンバン訴えてくれればいいんです。」それで同一賃金を担保できると言う無責任ぶりである。地域による賃金格差、男女による賃金格差などは黙殺している。「働き方に関する政策決定プロセス有識者会議」が開催されているが「ILOがどれだけ偉いのか」「使用者と労働者

の代表が同数である必要はない」「労働者の意見反映はヒヤリングで足りる」など労政審の変質を指摘している。自分の労働条件に関与し、人らしく働きたいという願いを現実なものにする、組織を超えて連帯し、労働組合が覚悟を持って、ストライキを含め腹を決めてたたかうことが必要だと訴えた。